

令和6年度 教育課程表

第4年次用

小学科・類型等		ビジネス(4修生)					教科の備考
学級数		1					
教科等	科目	標準 単位数	年次				
			1	2	3	4	
国語	国語総合	4	2	2			8
	国語表現	3			2	2	
地理	世界史A	2		2			4
歴史	日本史A	2			2		
公民	現代社会	2	2				4
	倫理	2				2	
数学	数学I	3	2	1			3.7
	数学A	2			▲2	▲2	
理科	科学と人間生活	2		2			4.8
	生物基礎	2			▲2	▲2	
	地学基礎	2	2				
保健	体育	7~8	2	2	2	2	10
体育	保健	2	1	1			
芸術	音楽I	2			2		2
外国語	コミュニケーション英語I	3	2	2			8
	英語会話	2			2		
	英語表現I	2				2	
家庭	家庭基礎	2		2			2
情報	社会と情報	2					
専門科目	ビジネス基礎	2~4	3				27
	課題研究	2~4		3	2		
	ビジネス実務						
	総合実践	2~4				3	
	マーケティング	2~6			※2	□3	
	経済活動と法	2~5				□3	
	簿記	2~8			3	□3	
	財務会計I	2~5					
	原価計算	2~5					
	情報処理	2~4	3	2			
ビジネス情報	2~4			※2	□3		
総合的な探究の時間	3~6	0	0	0	0	0	
履修単位数		19	19	19	19	76	
特別活動・ホームルーム活動		1	1	1	1	4	
合計		20	20	20	20	80	
卒業に必要な修得単位数		74					
週あたり時間数		20	20	20	20		

▲ 数学Aと生物基礎との間で選択し、3・4年次で続けて履修する。

情報は専門科目情報処理で代替する。

※ マーケティング・ビジネス情報との間で選択し、履修する。

□ マーケティング・経済活動と法・簿記・ビジネス情報の中から2科目を選択し、履修する。

総合的な探究の時間は2年次の課題研究で代替する。

備考  
 ・高等学校卒業程度認定試験で合格科目があれば、審査の上単位の修得を認める。  
 ・技能審査については、条件を満たせば審査の上単位の修得を認める。  
 ・転編入者の過年度の修得単位数があれば、審査の上これを認める。

◎(3修生)技能審査:次の技能審査を対応科目で指導し、卒業に必要な不足単位数(2単位)を修得させる

技能審査の種類と水準	対応科目	増加単位数	備考
日商簿記検定(2級)or簿記実務検定(会計)	財務会計Iまたは簿記	2	注1 対応科目は履修していること 注2 同種資格の取得による増加単位は最大2単位とする。
日商簿記検定(3級)	簿記	1	
簿記実務検定(原価計算)	原価計算	1	
簿記実務検定(2級)	簿記	1	注3 日商簿記(2級)および簿記(会計)の増単は選択科目によりどちらか一方の科目とする。
ビジネス文書実務検定(2級)	情報処理	1	
ビジネス文書実務検定(1級) (速度部門)(ビジネス文書部門)	情報処理	各1	※全国商業高等学校協会主催 全国経理教育協会主催 日本商工会議所主催 日本実用英語検定協会主催 日本漢字能力検定協会主催 上記主催の検定とする。
ビジネス計算(電卓)実務検定(2級)(総合)	ビジネス基礎	1	
ビジネス計算(電卓)実務検定(1級) (普通計算部門)(ビジネス計算部門)	ビジネス基礎	各1	
情報処理検定(2級以上)	情報処理	1	
商業経済検定(2級以上) (経済活動と法)(マーケティング)	経済活動と法 マーケティング	1	
英語検定(2級以上)or実用英語検定(準2級以上)	コミュニケーション英語I	1	
漢字能力検定(3級以上)	国語総合	1	